

# かちまい論壇「十勝の一員として」

2017/11/06 12:51

日本銀行帯広事務所長

水川達生

十勝・帯広に赴任して4カ月半が過ぎた。国内では、東京、札幌、名古屋、それに大阪で勤務してきた。転勤の都度、新しい土地での生活に一日でも早く慣れようと、また、これまでの勤務地との共通点を見つけては少しでも安心したいといった心理も働いて、街歩きやドライブにいそしんできた。当地でもさっそく試みているが、正直かなり勝手が違う。

地域の歴史的な成り立ちや産業構造もさることながら、広大で美しい景観に澄んだ水と空気、新鮮な食材とそれらを生かした食の数々など、そもそも比較すること自体がナンセンスで、都会暮らしに慣れきった者からすれば、毎日が非日常的な体験の連続だ。地元の方に転勤族であることを伝えると、「ここは何もないでしょ」と言われることもあるが、「とんでもない、たくさんあります」と即座にお返ししている。

その意味で、当地の行政や経済界が推進されている、食や観光を柱とした地域振興の方向性に異論はない。農業分野でのICT(情報通信技術)の活用や国内初の民間宇宙ロケットの打ち上げなど、先進的な取り組みも見られている。私自身も、機会あるごとに前任地の知人らに当地の素晴らしさをアピールしている。

ところで、これまでの勤務地をより大きな地域圏(東京圏、名古屋圏、大阪圏、北海道)としてとらえると、東京圏以外の地域圏にはある共通点がある。人口の社会減の問題だ。相対的に就業機会に恵まれ、教育や医療・福祉、文化関連施設、交通インフラが整っていると思える名古屋圏や大阪圏でも、ここ数年、北海道と同様に若年層を中心とした人口の転出超過が続き、東京圏への人口集中が止まらない。なぜ、そうなるのか。

よく言われるのは、就業機会や教育、特に高等教育面における東京圏の優位性だ。また、経済のサービス化が進む中、人口の集積が経済の効率性を高め、それがさらなる人口の集積を招いているといった分析も目にする。さらに、就職を機に大阪圏から転出した私自身が学生の頃にぼんやり感じていたことも踏まえて付け加えると、東京圏が若者を惹(ひ)きつけてやまない背景には、「夢」や「憧れ」といった、ナイーブだが、決して無視できない要素も多分にあるように思う。

この点、十勝はどうか。豊富な土地資源と先人の努力のうえに最新の技術を重ねて飛躍を目指す農業、食と豊かな自然環境で訪れる者を魅了する観光、将来性豊かな航空宇宙関連産業の誘致や再生可能エネルギーの普及に向けた取り組みなど、この大地には「夢」や「憧れ」の対象がすでにあり、あるいはその有力な候補が着実に芽吹きつつあるように思える。それらの実現に向け、十勝の一員として微力ながら貢献していきたい。

#### <筆者略歴>

1966年、兵庫県出身。神戸大学法学部卒業。88年、日本銀行に入行し、札幌支店、ニューヨーク事務所、システム情報局調査役、業務局国庫業務課長などを経て、6月19日から現職。千葉市に妻を残し、単身赴任。